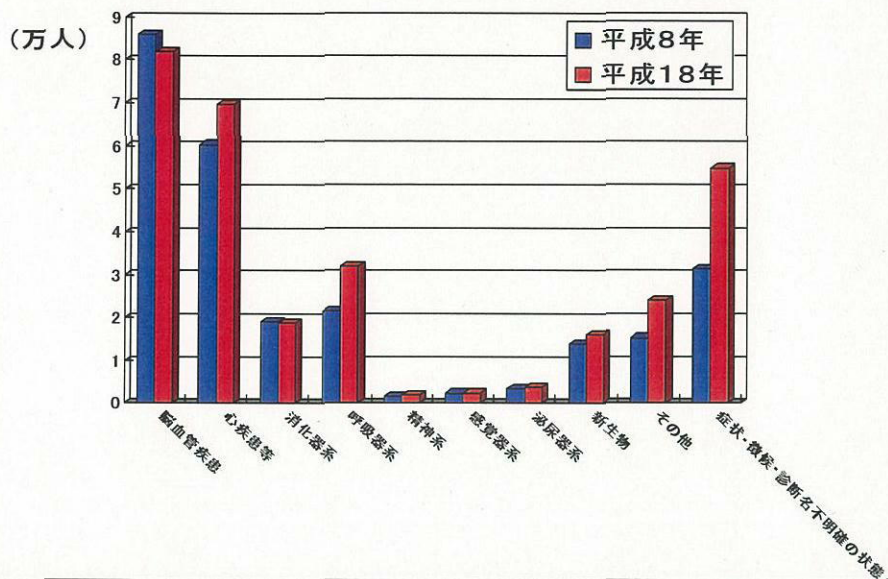


重症傷病者における10年間の救急搬送人員の変化(急病・疾患別)



資料2

救急搬送おける医療機関の受入状況等実態調査の結果について

平成20年3月11日
消 防 庁

救急搬送における医療機関の受入状況等実態調査の結果について

救急搬送における医療機関の受入状況については、昨年、産科・周産期傷病者について調査を行ったところですが、産科・周産期傷病者以外の救急搬送においても医療機関の受入照会回数が多数に及ぶ事案が各地に見られるなど、救急体制について各地域において様々な課題があると指摘されております。このため、総務省消防庁は、産科・周産期傷病者以外にも調査範囲を拡大し、救急搬送における医療機関の受入状況等について、下記の要領により実態調査を行いました。この度、その結果がまとまりましたので公表します。

(調査要領)

1 調査対象期間

平成19年中に行われた救急搬送

2 調査対象事案

- (1) 重症以上傷病者搬送事案
- (2) 産科・周産期傷病者搬送事案
- (3) 小児傷病者搬送事案
- (4) 救命救急センター等搬送事案

3 調査項目

- (1) 搬送人員
- (2) 医療機関に受入の照会を行った回数ごとの件数
- (3) 現場滞在時間区分ごとの件数
- (4) 受入に至らなかった理由ごとの件数
- (5) 照会回数11回以上の事案における受入に至らなかった理由等
- (6) 救命救急センター等における救急搬送の受入状況

- 本調査は、救急搬送における医療機関の受入状況等を緊急に把握するため、各消防本部における現時点での搬送データを基に集計した速報値であり、今後、数値の変更があり得るものです。

参考

第二次医療機関の医療機関数や現況調査については、現在は平成18年の医療法改正に伴う医療計画制度の変更の過渡期であり、都道府県を通じて実施している第二次救急医療機関の数や、現況調査などには、県によって

- ① 以前、国からの補助対象であった病院郡輪番制病院や共同利用型病院のみを報告しているところ
- ② 二次医療機関のうち、独自に定めた基準を満たしている病院のみを報告しているところ

がある。

そのため、各都道府県からすべての第二次医療機関について報告がなされている状況ではない。

【ポイント】

I 平成19年における救急搬送の概況

全国の消防本部における救急自動車による総搬送人員は4,918,479人でした。
このうち、本調査の対象となる搬送人員は次のとおりです。(表1参照)

- | | |
|-----------------|----------|
| 1 重症以上傷病者搬送人員 | 530,671人 |
| 2 産科・周産期傷病者搬送人員 | 46,978人 |
| 3 小児傷病者搬送人員 | 386,221人 |
| 4 救命救急センター等搬送人員 | 157,880人 |

1、2、3の重複を除いた調査対象の搬送人員は953,119人となります。

(4の救命救急センター等搬送人員と1、2、3の搬送人員の重複部分は区分できないため、合算していません。)

II 調査対象事案の状況

1 重症以上傷病者搬送事案

重症以上傷病者搬送人員530,671人から転院搬送人員119,046人を除いた、411,625人について調査した結果、以下のとおりでした。

(1) 医療機関に受入の照会を行った回数ごとの件数

① 受入医療機関が決定するまでに行った照会回数が4回以上のものは14,387件、6回以上のものは5,398件、11回以上のものも1,074件ありました。最大照会回数は、50回でした。(表2参照)

② 地域別の状況を見ると、首都圏、近畿圏等の大都市周辺部において照会回数が多くなっており、4回以上の事案の占める割合が全国平均(3.9%)を上回る団体(10都府県[※])における4回以上の事案数が、全国の事案数の85%を占めるなど、選定困難事案が一定の地域に集中して見られる傾向があります。

※宮城県、茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府
兵庫県、奈良県

(2) 現場滞在時間区分ごとの件数

現場滞在時間が30分以上のものは15,656件、60分以上のものは1,721件、90分以上のものは405件、120分以上のものは153件、150分以上のものも65件ありました。(表3参照)

(3) 受入に至らなかった理由ごとの件数

受入に至らなかった主な理由は、「処置困難[※]」(22.9%)、「ベッド満床」(22.2%)、「手術中・患者対応中」(21.0%)、「専門外」(10.4%)となっています。(表4参照)

※「処置困難」とは、医療機関が、傷病者の症状に対処する設備・資器材がない、手術スタッフが不足している、傷病者の症状から手に負えないことを理由に受入できないと回答したものをいいます。

(4) 照会回数 11 回以上の事案

- ① 受入に至らなかった主な理由は、「処置困難」(31.5%)、「ベッド満床」(23.8%)、「手術中・患者対応中」(17.7%)、「専門外」(9.1%)となっています。(表 5-1 参照)
- ② 覚知時間別の分布は、18 時から翌 6 時の時間帯に多くみられます。(図 1 参照)

2 産科・周産期傷病者搬送事案

産科・周産期傷病者搬送人員 46,978 人から転院搬送人員 22,805 人を除いた、24,173 人について調査した結果、以下のとおりでした。

(1) 医療機関に受入の照会を行った回数ごとの件数

- ① 受入医療機関が決定するまでに行った照会回数が 4 回以上のものは 1,084 件、6 回以上のものは 363 件、11 回以上のものも 53 件ありました。最大照会回数は、43 回でした。(表 2 参照)
- ② 地域別の状況を見ると首都圏、近畿圏等の大都市周辺部において照会回数が多くなっており、4 回以上の事案の占める割合が全国平均(4.8%)を上回る団体(7 都府県[※])における 4 回以上の事案数が、全国の事案数の 77%を占めるなど、選定困難事案が一定の地域に集中して見られる傾向があります。

※宮城県、茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、奈良県

(2) 現場滞在時間区分ごとの件数

現場滞在時間が 30 分以上のものは 1,331 件、60 分以上のものは 109 件、90 分以上のものは 27 件、120 分以上のものは 12 件、150 分以上のものも 3 件ありました。(表 3 参照)

(3) 受入に至らなかった理由ごとの件数

受入に至らなかった主な理由は、「処置困難」(21.5%)、「手術中・患者対応中」(19.0%)、「専門外」(13.5%)、「ベッド満床」(10.1%)、となっています。(表 4 参照)

(4) 照会回数 11 回以上の事案

- ① 受入に至らなかった主な理由は、「処置困難」(38.7%)、「ベッド満床」(17.0%)、「手術中・患者対応中」(12.3%)、「専門外」(7.1%)、「初診(かかりつけ医なし)」(6.5%)となっています。(表 5-1 参照)
- ② 傷病程度は、「重症以上」(10.5%)、「中等症」(63.2%)、「軽症・その他」(26.3%)となっています。(表 5-2 参照)
- ③ 覚知時間別の分布は、16 時から翌 8 時の時間帯に多くみられます。(図 2 参照)

(5) 平成 16 年から平成 19 年までの傾向について

平成 16 年から平成 19 年までの照会回数 4 回以上の事案数の推移をみると、平成 16 年 255 件(全体の 1.9%)、平成 17 年 342 件(同 2.6%)、平成 18

年 667 件（同 4.1%）、平成 19 年 1,084 件（同 4.8%）と件数、比率ともに増加傾向にあります。（図 5 参照）

（注）昨年実施した産科・周産期傷病者搬送調査においては、転院搬送分を含む数値で集計しており、平成 16 年から平成 18 年における上記括弧内の割合は、転院搬送における照会回数を 1 回として算定したものです。

3 小児傷病者を搬送した事案

小児傷病者搬送人員 386,221 人から転院搬送人員 32,175 人を除いた、354,046 人について調査した結果、以下のとおりでした。

(1) 医療機関に受入の照会を行った回数ごとの件数

- ① 受入医療機関が決定するまでに行った照会回数が 4 回以上のものは 8,618 件、6 回以上のものは 2,241 件、11 回以上のものも 220 件ありました。最大照会回数は、35 回でした。（表 2 参照）
- ② 地域別の状況を見ると首都圏、近畿圏等の大都市周辺部において照会回数が多くなっており、4 回以上の事案の占める割合が全国平均（2.7%）を上回る団体（11 都府県※）における 4 回以上の事案数が、全国の事案数の 81%を占めるなど、選定困難事案が一定の地域に集中して見られる傾向があります。

※宮城県、福島県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、新潟県、大阪府、兵庫県、奈良県、佐賀県

(2) 現場滞在時間区分ごとの件数

現場滞在時間が 30 分以上のものは 5,112 件、60 分以上のものは 229 件、90 分以上のものは 38 件、120 分以上のものは 16 件、150 分以上のものも 5 件ありました。（表 3 参照）

(3) 受入に至らなかった理由ごと件数

受入に至らなかった主な理由は、「専門外」（25.2%）、「手術中・患者対応中」（21.8%）、「処置困難」（16.1%）、「医師不在」（10.6%）となっています。（表 4 参照）

(4) 照会回数 11 回以上の事案

- ① 受入に至らなかった主な理由は、「処置困難」（29.0%）、「専門外」（22.5%）、「手術中・患者対応中」（12.2%）、「医師不在」（5.4%）となっています。（表 5-1）
- ② 傷病程度は、「重症以上」（3.2%）、「中等症」（28.2%）、「軽症・その他」（68.6%）、となっています。（表 5-2）
- ③ 覚知時間別の分布は、16 時から 22 時の時間帯に多くみられます。（図 3 参照）

4 救命救急センター等搬送事案

救命救急センター等^{*}搬送人員 157,880 人から転院搬送人員 23,838 人を除いた、134,042 人について調査した結果、以下のとおりでした。

※救命救急センター等とは、救命救急センター、地域で救命救急センターに準じて取り扱われる施設（大学病院救急部など）をいいます。

(1) 医療機関に受入の照会を行った回数ごとの件数

受入医療機関が決定するまでに行った照会回数が 4 回以上のものは 6,990 件、6 回以上のものは 2,910 件、11 回以上のものも 802 件ありました。最大照会回数は、63 回でした。（表 2 参照）

(2) 現場滞在時間区分ごとの件数

現場滞在時間が 30 分以上のものは 7,798 件、60 分以上のものは 964 件、90 分以上のものは 223 件、120 分以上のものは 73 件、150 分以上のものも 31 件ありました。（表 3 参照）

(3) 受入に至らなかった理由別ごとの件数

受入に至らなかった主な理由は、「処置困難」（24.7%）、「手術中・患者対応中」（21.2%）、「ベッド満床」（21.0%）、「専門外」（9.3%）となっています。（表 4 参照）

(4) 照会回数 11 回以上の事案

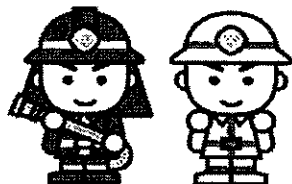
① 受入に至らなかった主な理由は、「処置困難」（36.8%）、「ベッド満床」（17.7%）、「手術中・患者対応中」（15.5%）、「専門外」（10.3%）となっています。（表 5-1 参照）

② 傷病程度は、「重症以上」（31.7%）、「中等症」（57.9%）、「軽症・その他」（10.4%）となっています。（表 5-2 参照）

③ 覚知時間別の分布は、20 時から翌 6 時の時間帯に多くみられます。（図 4 参照）

(5) 救急患者受入率

救命救急センター等搬送事案を他の事案と明確に区分している 280 本部における、救命救急センター等の救急患者受入率（照会数に対する受入数の割合）を分析したところ、首都圏、近畿圏等の大都市周辺部において、受入率が低い傾向が見られました。



消太

（連絡先）

総務省消防庁救急企画室

Tel : 03-5253-5111 (内 7976)

Tel : 03-5253-7529

担当：松野、小板橋、小浜

s.kohama@soumu.go.jp

表 1

傷病者搬送の状況 (平成19年)

	搬送人員		各搬送人員の全体に対する割合	集計不能本部
	うち転院搬送人員 (割合)			
総救急搬送人員	4,918,479 人			
	454,477 人 (9.2%)			
重症以上傷病者	530,671 人		10.8%	12
	119,046 人 (22.4%)			
産科・周産期傷病者	46,978 人		1.0%	19
	22,805 人 (48.5%)			
小児傷病者	386,221 人		7.9%	7
	32,175 人 (8.3%)			
救命救急センター等搬送傷病者	157,880 人		3.2%	527
	23,838 人 (15.1%)			

表 2

医療機関に受入の照会を行った回数ごとの件数

		1回	2~3回	4~5回	6~10回	11回~	計	最大照会回数	集計不能本部
		重症以上傷病者	件数	309,230	44,609	8,989	4,324		
	割合	84.0%	12.1%	2.4%	1.2%	0.3%	100%		
産科・周産期傷病者	件数	18,500	2,944	721	310	53	22,528	43	118
	割合	82.1%	13.1%	3.2%	1.4%	0.2%	100%		
小児傷病者	件数	263,925	45,210	6,377	2,021	220	317,753	35	123
	割合	83.1%	14.2%	2.0%	0.6%	0.1%	100%		
救命救急センター等搬送傷病者	件数	97,323	17,258	4,080	2,108	802	121,571	63	559
	割合	80.1%	14.2%	3.4%	1.7%	0.7%	100%		

表 3

現場滞在時間区分ごとの件数

		30分未満	30分以上	60分以上	90分以上	120分以上	150分以上	計	集計不能本部
重症以上傷病者	件数	372,327	13,935	1,316	252	88	65	387,983	74
	割合	96.0%	3.6%	0.3%	0.1%	0.02%	0.02%	100%	
産科・周産期傷病者	件数	22,159	1,224	83	16	9	3	23,494	64
	割合	94.3%	5.2%	0.4%	0.1%	0.04%	0.01%	100%	
小児傷病者	件数	330,213	4,883	191	22	11	5	335,325	71
	割合	98.5%	1.5%	0.1%	0.01%	—	—	100%	
救命救急センター等 搬送傷病者	件数	103,264	6,834	741	150	42	31	111,062	550
	割合	93.0%	6.2%	0.7%	0.1%	0.04%	0.03%	100%	

表 4

受入に至らなかった理由ごとの件数

		手術中・患者対応中	ベッド満床	処置困難	専門外	医師不在	初診 (かかりつけ医なし)	理由不明 その他	計	集計不能本部
重症以上傷病者	件数	24,458	25,881	26,674	12,061	4,112	242	22,991	116,419	196
	割合	21.0%	22.2%	22.9%	10.4%	3.5%	0.2%	19.7%	100%	
産科・周産期傷病者	件数	1,348	713	1,520	958	510	135	1,895	7,079	163
	割合	19.0%	10.1%	21.5%	13.5%	7.2%	1.9%	26.8%	100%	
小児傷病者	件数	17,222	3,376	12,676	19,885	8,343	119	17,289	78,910	179
	割合	21.8%	4.3%	16.1%	25.2%	10.6%	0.2%	21.9%	100%	
救命救急センター等 搬送傷病者	件数	10,460	10,362	12,187	4,588	1,600	59	10,035	49,291	580
	割合	21.2%	21.0%	24.7%	9.3%	3.2%	0.1%	20.4%	100%	

表5-1

照会回数 11 回以上の事案における受入に至らなかった理由ごとの件数

		手術中・患者対応中	ベット満床	処置困難	専門外	医師不在	初診 (かかりつけ 医なし)	理由不明 その他	合計
重症以上傷病者	件数	2,603	3,492	4,636	1,342	320	27	2,277	14,697
	割合	17.7%	23.8%	31.5%	9.1%	2.2%	0.2%	15.5%	100%
産科・周産期傷病者	件数	85	117	267	49	19	45	108	690
	割合	12.3%	17.0%	38.7%	7.1%	2.8%	6.5%	15.7%	100%
小児傷病者	件数	267	70	634	493	119	6	599	2,188
	割合	12.2%	3.2%	29.0%	22.5%	5.4%	0.3%	27.4%	100%
救命救急センター等 搬送傷病者	件数	1,317	1,507	3,131	877	104	12	1,563	8,511
	割合	15.5%	17.7%	36.8%	10.3%	1.2%	0.1%	18.4%	100%

表5-2

照会回数 11 回以上の事案における傷病程度別搬送人員

		重症以上	中等症	軽症・その他
産科・周産期傷病者	件数	6	36	15
	割合	10.5%	63.2%	26.3%
小児傷病者	件数	7	62	151
	割合	3.2%	28.2%	68.6%
救命救急センター等 搬送傷病者	件数	242	442	79
	割合	31.7%	57.9%	10.4%